※令和４年度以降入学生用

学校番号	１０１４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高校世界史」（山川出版社）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界史探究では世界の歴史の古代から現代までを中学校の時よりも深く勉強していきます。多くの歴史用語が出てきますが、まずは歴史の流れをつかむことを意識して学んでもらえたらと思います。歴史の流れをつかめば、内容もよく入ってくるでしょう。ですが、多くの歴史用語が出てくるのは確かなので、毎日復習して知識を定着させることが大切です。提出物は期限までに出し、定期考査も計画的に勉強しましょう。

２　学習の到達目標

世界の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけて総合的に考察させ、世界の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史的に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本や日本の文化を大切にするとともに、他国や他国の文化を尊重することの大切さなどを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第Ⅰ部　諸地域の歴史的特質の形成	第 1 章　文明の成立と古代文明の特質 1．文明の誕生 2．古代オリエント文明とその周辺 3．南アジアの古代文明 4．中国の古代文明 5．南北アメリカ文明 第 2 章　中央ユーラシアと東アジア世界 1．中央ユーラシア 2．秦・漢帝国 3．北方民族の活動と中国の分裂 4．東アジア文化圏の形成 第 3 章　南アジア世界と東南アジア世界の展開 1．仏教の成立と南アジアの統一国家 2．インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3．東南アジア世界の形成と展開 第 4 章　西アジアと地中海周辺の国家形成 1．イラン諸国家の興亡とイラン文明 2．ギリシア世界 3．ローマと地中海支配 4．キリスト教の成立と発展 第 5 章　イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 1．アラブの大征服とカリフ政権の成立 2．ヨーロッパ世界の形成	a: 文明の成立と古代文明の特質を理解している。中央ユーラシアと東アジア世界の国々の社会や国の変遷などを理解している。南アジア世界と東南アジア世界の特色や仏教・ヒンドゥー教について理解している。西アジアと地中海周辺の国家形成や社会・文化を理解している。イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成を理解している。 ｂ： 生活や身分、宗教的行為、役割などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点である生業、身分、宗教、王権などについて考察し、問いを表現している。 ｃ： 第Ⅰ部に関わる諸事象について、課題意識や見通しをもって学習に取り組んでいる。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・授業態度 ・発問評価

※令和４年度以降入学生用

	第Ⅱ部　諸地域の交流・再編	第6章　イスラーム教の伝播と西アジアの動向 1. イスラーム教の諸地域への伝播 2. 西アジアの動向 第 7 章　ヨーロッパ世界の変容と展開 1. 西ヨーロッパの封建社会 2. 東ヨーロッパ世界 3. 西ヨーロッパ世界の変容 4. 中世文化 第 8 章　東アジア世界の展開とモンゴル帝国 1. 宋とアジア諸地域の自立化 2. モンゴルの大帝国 第 9 章　大交易・大交流の時代 1. アジア交易世界の興隆 2. ヨーロッパの海洋進出、アメリカ大陸の変容 第 10 章　アジアの諸帝国の繁栄 1. オスマン帝国とサファヴィー朝 2. ムガル帝国の興隆 3. 清代の中国と隣接諸地域 第 11 章　近世ヨーロッパ世界の動向 1. ルネサンス 2. 宗教改革 3. 主権国家体制の成立 4. オランダ・イギリス・フランスの台頭 5. 北欧・東欧の動向 6. 科学革命と啓蒙思想	a：８世紀以降のイスラーム教の各地への拡大と伝播の背景やその特色を、理解している。宋から清に至る中国王朝の変遷と周辺地域との関連について理解している。中世から近世に至るヨーロッパの情勢を、社会の動きや文化の特徴などから理解している。イスラーム世界の拡大、中国王朝の変遷と周辺地域との関係性、ヨーロッパ社会の変化と文化の特徴について、考察している。〃 b：宗教の伝播による民族構成や、社会の変化の現代にいたる影響に着目しながら、多面的・多角的に考察し、表現している。中国王朝の変遷や領域の拡大が、交易や思想の伝播に与えた影響を関連付け、多角的多面的に考察し、表現している。中世から近世に至るヨーロッパ社会の交易網の拡大や「世界の一体化」の進展について、各地域の状況を関連付け、多面的・多角的に考察し表現している。 c：10～12 世紀のカイロ・ウィーンの変遷の背景と、その変遷が人々の生活にどのように関わったのか、２つの国際都市が歴史上どのような位置づけを持つのか、その意味を主体的に追究しようとしている。８世紀以降のイスラーム世界・宋から清に至る中国・中世から近世に至るヨーロッパ社会の変遷が持つ意味を、社会経済的位置づけの観点から比較、関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。イスラーム世界の拡大についての学習を振り返り、文化の伝播と影響に関する学習の視点や方法について確認し、学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。〃	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・授業態度 ・発問評価

※令和４年度以降入学生用

後期	第Ⅲ部　諸地域の結合・変容	第 12 章　産業革命と環大西洋革命 1. 産業革命 2. アメリカ合衆国の独立と発展 3. フランス革命とナポレオンの支配 第 13 章　イギリスの優位と欧米国民国家の形成 1. ウィーン体制と政治・社会の変動 2. 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3. アメリカ合衆国の発展 4. 19 世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 第 14 章　アジア諸地域の動揺 1. 西アジア地域の変容 2. 南アジア・東南アジアの植民地化 3. 東アジアの激動 第 15 章　帝国主義とアジアの民族運動 1. 第2次産業革命と帝国主義 2. 世界再分割と列強の対立 3. アジア諸国の変革と民族運動 第 16 章　第一次世界大戦と世界の変容 1. 第一次世界大戦とロシア革命 2. ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3. アジア・アフリカ地域の民族運動 第 17 章　第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 1. 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2. 第二次世界大戦 3. 新しい国際秩序の形成	a: 産業革命から第 2 次世界大戦後の新しい国際秩序の形成について、理解している。 b: 産業革命から第 2 次世界大戦後の新しい国際秩序の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 第Ⅲ部に関わる諸事象について、課題意識や見通しをもって学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・授業態度 ・発問評価

※令和４年度以降入学生用

	第Ⅳ部　地球世界の課題	第 18 章　冷戦と第三世界の台頭 1. 冷戦の展開 2. 第三世界の台頭とキューバ危機 3. 冷戦体制の動揺 19　冷戦の終結と今日の世界 1. 産業構造の変容 2. 冷戦の終結 3. 今日の世界 4. 現代文明の諸相	a: 冷戦の時代から今日の世界や国際機構の形成や平和の模索、経済のグローバル化などについて、理解している。 b: 冷戦の時代から今日の世界や国際機構の形成や平和の模索、経済のグローバル化などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 第Ⅳ部に関わる諸事象について、課題意識や見通しをもって学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・授業態度 ・発問評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度